

 N_0 . 1702013年7月

県立長崎図書館では、本県にゆかりのある作家や文学作品を中心に、「長崎ゆかりの文学展」として、 年間4回の企画展と常設展を開催しています。毎年夏の企画展では「原爆文学」をテーマに長崎の文 学を紹介しています。

第2回企画展「原爆文学展」開催中

現在、4階郷土資料展示室で「原爆文学展」を開催中です。長崎の作 家、詩人、歌人、俳人たちの言葉の力によって長い時間をかけて醸成さ れてきた「長崎の原爆文学」作品を紹介しています。

林京子、福田須磨子、風木雲太郎、竹山広、松尾あつゆき、おおえひ で、山田かん、青来有一等に関する貴重資料や著書、また原爆に関する 文学碑の写真などを展示中です。歌人 竹山広の直筆原稿・創作ノート、 山田かんの直筆はがきは初公開です。



会期は9月8日(日)までです。この機会にぜひご来館ください。

常設展「シリーズ 長崎文学散歩」も開催中

本県には豊かな文学を育んだそれぞれの土地に、作家の功績を讃えるとともにその作品を後世に継 承するために多くの文学碑が建てられています。そのような県内の文学碑や文学作品の舞台の写真と、 解説パネルや本館所蔵資料を展示し、長崎ゆかりの文学を「長崎文学散歩」としてシリーズで紹介し ています。

第6回目の現在は、じゃがたらお春の碑(吉井勇歌碑)(長崎市)と 北原白秋歌碑(雲仙市)、井上光晴文学碑(西海市)、河合曾良句碑(壱 岐市)、吉村昭著『海の祭礼』の主人公ラナルド・マクドナルドの顕彰 碑(長崎市)です。

十六年ぶりに来崎した時の感慨を歌や文章で記した吉井勇の直筆原稿 「長崎小吟」や吉村昭著『暁の旅人』の直筆原稿などを展示しています。 企画展と併せてぜひご観覧ください。



◎ 長崎ゆかりの文学展第2回企画展、常設展 ··· P1	◎ 文部科学省表彰団体の紹介(H24) ······ P4
◎ 長崎ゆかりの文学展第1回企画展 P2	◎ 文部科学省表彰団体の紹介(H25) ······ P 5
◎ 第28回県立長崎図書館講座 ····· P 2	
◎ 文化講演会 ······ P 2	◎ 長崎図書クロスねっと P6
◎ 県内図書館散歩 ····· P 3	◎ 行事案内 ······ P 6
◎ 実習生の声 P3	

長崎ゆかりの文学展

第1回企画展『長崎の劇作家展』



長崎の劇作家たちは、長崎の歴史や風土を背景にしながら、独自の意識・手法によっ て戯曲やテレビ・映画の脚本等でその作品世界を創り上げてきました。これまで長崎 ゆかりの文学展で取り上げたことのなかった戯曲文学に親しんでいただきたいという 趣旨のもと、今回の企画展では、長崎県出身の劇作家の中で福地桜痴、田中千禾夫、



市川森一 直筆原稿

市川森一、岡部耕大、岩松了、野田秀樹について、その 貴重資料や著書等を展示して長崎との関わりや戯曲文学 の持つ魅力を紹介しました。

今回初公開だった市川森一の直筆原稿や岡部耕大の色紙、岩松 了の直筆原稿と色 紙、野田秀樹の直筆色紙などを、じっくりとご覧になる来館者の姿が多数見受けら

なお、開催期間中、劇作家の岡部耕大氏も来館され、展示資料をご覧になりました。

第28回 県立長崎図書館講座

講演「市川森一の『夢の軌跡』と長崎」を開催しました。

長崎ゆかりの文学展 第1回企画展「長崎の劇作家展」に連動した文学講座を5月 25日(土)に開催しました。放送評論家でジャーナリストの鈴木嘉一氏を講師にお 迎えし、市川森一作品世界の魅力、故郷長崎の風土との結びつきについてお話を伺い ました。この講座は「市川森一・上映展示会 ~夢の軌跡~」を開催していた長崎歴 史文化博物館との共催で実施しました。



放送担当の記者として20年以上にわたって市川森一氏の仕事を身近で見つめてき



講師の鈴木嘉一氏

た鈴木氏のお話は大変具体的で、市川森一氏への思いにあふれたものでした。「虚と 実」「聖と俗」「夢」といったキーワードを挙げながら作品世界を分析し、市川森・ 氏の「豊かなドラマの森」について熱く語っていただきました。

受講者からは、「ドラマの裏話が聞けて実に面白かった。」

「市川森一氏の作品紹介から彼自身を浮かび上がらせてくれた。」

「市川さんをより身近に感じました。改めてその作品にふれてみたいと感じました。」 等の感想が寄せられ、大変好評でした。

平成25年度長崎県読書グループ連絡協議会文化講演

6月13日(木)本館講堂において文化講演会を開催し、松浦史料博物館学芸 員の久家孝史氏に「平戸藩の『図書館』(楽歳堂文庫)について」と題して御講 演をいただきました。

楽歳堂(らくさいどう)文庫とは江戸時代後期の平戸藩主であった松浦静山 が平戸城内に設置したもので、和書や洋書のほか、オランダ製の地球儀や天球儀、 美術品や発掘品等が収められた現代で言えば博物館のような施設であり、その 貴重なコレクションは現存するものでは国内最大と考えられているそうです。

当日の御講演では、平戸藩成立の背景からはじまり、歴代藩主の業績や人と なり、松浦静山の収集品とその多くが現存している理由等についてわかりやす

く御解説いただき、参加者は平戸の歴史を身近に感じて、楽しみながら理解を深めることができました。

211-70 県内図書館散歩の

一 五島市立図書館

五島市立図書館は、平成3年にオープンした下五島地区で唯一の公共図書館です。市立図書館では、館内サービスのほかに、移動図書館の巡回やボランティアグループと連携したおはなし会の開催などを行っています。

市立図書館が運営する移動図書館「ラブリーつばき号」は、幼稚園や学校、 介護施設などを中心に巡回しています。特に、市街地から離れた地域には書 店がなく、本を読める環境が十分とはいえません。そうした環境の中で、子 どもたちは「ラブリーつばき号」の巡回をとても楽しみにしていて、毎回た

> くさんの貸出とリクエストを受けています。 読書ボランティアグループと連携し





読書ボランティアグループと連携した取り組みとしては、「おはなしもこもこ」が中心になって行う月2回のおはなし会があります。また、夏休みに開くお楽しみ会や、12月に行うクリスマス会など、親子で楽しめるイベントも行っています。

今後も、地域の活性化につながる図書館サービスを展開し、市民に身近な図書館づくりをめざして努力していきたいと思います。



実習生の声をご紹介します。

<u>~県立長崎図</u>書館での臨床実習を終えて~



●長崎大学大学院 教育学研究科 郭 ミミ

今回長崎県立長崎図書館の資料課、奉仕課や郷土課で5日間の実習生活を体験しました。

37人の職員さんが105万冊ぐらいの資料を管理している、書庫にはこんなに多く、珍しく、貴重な資料を綺麗に所蔵している、協力車巡回で他の図書館と協力して資料を提供していることなどに最初びつくりしましたが、今は本当にすごいことだと思っています。

実習前はずっと「図書館の仕事は簡単でしょう」「本ばっかりの図書館で働くと退屈でしょう」と思っていましたが、

今回実際にやってみたら、図書館の仕事は絶対に簡単なことではないとともに、 毎日こんなに多種多様の資料をちゃんと整理し、読者に提供することなど本の海 に浸っているのは実に充実で、豊かだと思います。

最後の二日間は自分の研究テーマに関する資料を探しまして、とても役に立ちました。

図書館の皆さんは五日間の内になんでも優しく教えてくれて、図書館の事務に関して色々いい勉強になったとともに自分自身もよく鍛えたと考えています。

外国人の私に対して、今回の実習は人生の貴重で、忘れがたい体験だと思います。



●長崎大学大学院 教育学研究科 段 氷ゆ

今回の実習をきっかけにして、図書の分類、整理、保存など色々な知識を学びました。まだまだですけど、とてもいい経験と思いました。

そして、実習を通して、今までの図書館の機能についての認識を改め直しました。実習前は、図書館はただ好きな



本が一杯置いてあり、静かで、勉強にも、本を読むことにも良い所ということだけ思っていました。しかし、県立図書館で昭和初めの電話帳を見たとき驚きました。それだけではなく、まだ沢山大事な資料が館員さんたちにより丁寧に保存されています。図書館は、人類文明を記載している博物館ではないかと思いました。また、県立図書館は全国の図書館と繋がっていて、できるだけ県民の皆さんの手に好きな本を送ります。貴重な資料を調べる学者にも、不便な村で暮らしている人にも、体の不自由な人にも、誰でも本を読む権利を持っています。県立図書館もこの目標を目指して頑張っています。とても感心しました。

文部科学省表彰団体の紹介 (H24)

● こぐまちゃん、にこにこ笑顔で、今日も行く!! (雲仙市図書館)

大きな窓から平成新山・雲仙普賢岳を望む明るい館内では、新聞を広げる常連の男性、ベビーカーを押す若いお母さん、親子連れ、放課後の小中学生など、様々な来館者が思い思いに過ごしておられます。

『誰もが気軽に利用しやすい図書館』を目指して、平成16年5月、国見町図書館として開館。翌年、7町合併による雲仙市の誕生に伴い、雲仙市図書館に名称変更して、9年が過ぎました。



こぐまちゃん号での様子

現在雲仙市を、2台の移動図書館車が駆け巡っています。「こぐまちゃん号」は国見~愛野の4町を、「にこにこ号」は千々石~南串山の3町を担当し、雲仙市内各小学校と幼稚園・保育園・学童クラブなど50カ所へ、図書資料を届けています。

小学校は昼休みや放課後に訪問します。山間部の小規模校の児童は自分で図書館に 来ることはできません。学校に到着すると、一目散に集まってくる児童の姿を目にし た途端、疲れも吹き飛び幸せを感じます。

また、学校によっては学級文庫や職員文庫などにも活用して頂いています。

幼稚園・保育園等では先生方が、園児のために絵本や児童書を選んでくださいます。 子どもに人気の本、保育士さんが読ませたい本など、現場の声を聞くことができ、選 書の参考になる良い機会と捉えております。

端から端まで、車で移動しても1時間はかかってしまう雲仙市において、図書館が出来るサービス・やらなくてはならないこと……課題は山積しています。

子どもたちは、未来からお預かりしている宝物です。先人が遺してくれた大切なものを、これからの人へおくりつないでゆく。そんな思いで、図書館サービスを通して、読書活動のお手伝いをしていきたいと思います。



にこにこ号

● 図書ボランティア「こもれび」

私たち図書ボランティア「こもれび」は、平成 10 年 8 月に活動を開始して、おかげさまで今年 15 年目に入りました。 メンバーは 16 名いますが、現在は 10 名程で活動しています。

子ども達の心の安らぎの場となるよう、明るく入りやすい学校図書館作りのお手伝いが出来ないかな?という想いから、図書館の環境整備、壁面作りや、手作りのブックスタンド作りを中心に、活動をスタートさせました。季節を感じる壁面を製作したり、絵本を通して子ども達と心を通わせられる時間が、私達の活動の大きなエネルギー源になっています。

その後、学校からの依頼もあり、読み語り活動にも取り組み、現在に至っています。

小学校の行事等への参加、小学校のお昼休みを利用した月に一度の読み語り会、中学校への朝の読書タイムでの読み語り、

3月には、小・中学校、卒業生に向けての読み語り会と、手作りしおりのプレゼントをしています。子ども達への思いを込めて、しおりの文字は毎年考えて手書きをしています。

西有家図書館で行われている「話の小箱」「出張お話し隊」などのおはなし会では、 地域の子ども達と触れ合える、楽しい時間になっています。

西有家小学校を中心に活動していますが、依頼があれば他の小学校、保育園にも出かけています。

我が子は、小学校を卒業してしまったメンバーもいますが、私達に卒業という言葉はありません。おばあちゃんになっても続けられるよう、それぞれの特技、アイディア、器用さを活動に生かしていけたらいいと思っています。

今回、文部科学大臣賞という私達には身に余るような賞を頂けたのも私達の活動を 温かく見守ってくださる方々のおかげだと思っております。

私達はこれからも、一人一人の子ども達が、感情豊かで自由な表現ができ、自分を 大切に思えるように、絵本を通してメッセージを送り続けていきたいと思っております。 もちろん、自分たちも多いに楽しんで…





文部科学省表彰団体の紹介 (H25)

●「暮らしの中に図書館を」-ひらかれた図書館を目指して-(島原図書館)

島原図書館は、昭和61年4月、「松平文庫」の価値ある貴重な資料の保存とともに、図書館建設の気運が高まる中開館しました。生涯学習にふさわしい環境づくりと、市民の要望に適切に対応できる開かれた図書館を目指し、資料の充実をはじめサービスの向上と利用の促進を図ってきました。特に児童を対象にした「おはなしのじかん」や「おはなしひろば」「おはなしのじかんの・1・2」等、「おはなしひろばたんぽぽ」「子育て支援ボランティア花」の方々の協力により毎月実施し親子共々大変な好評をいただいております。

また、地域に根ざした親しみやすい図書館として、小学2年生の社会体験 学習の受け入れや中学生の職場体験学習の場を提供するなど身近で利用しや



すい図書館づくりに心がけてきました。さらには、図書館より遠方の小学校へは毎月、本の配本を行いより多くの子どもたちへ読書活動の推進を図り、すばらしい本との出会いを体験させています。



島原図書館の主催事業として主なものを上げてみますと、折り紙教室、ゴールデンウィーク映画会、たなばたまつり、クリスマスおはなし会、手作り講座「布の絵本づくり」等々多くの事業を展開し地域のボランティアの方々と連携した活動を続けております。

さらには、大人向けの講座として旧島原藩主松平家の古文書の解説や島原 半島の郷土史家の先生方の講話を毎月年間を通して行っています。このよう に、幼児期から小・中学生の利用者に、さらには子どもをとりまく大人たち に読書の楽しさと喜びを提供し、子どもの成長に深くかかわれるような地域 のシンボル的な図書館になるよう職員一同がんばっています。

●「楽しい"おはなし"届けます」(おはなし宅配便:佐世保市)

12年前から、旧江迎町近辺で絵本の読み聞かせ活動を続けております。活動範囲が次第に広がって、現在は市内の各地や平戸市、松浦市など県北地域一帯に出向いています。

会員数 11 名で年間 400 回以上の"出動回数"ですから、フル活動状態です。

活動の場所は、保育所・幼稚園・小学校が中心ですが、中学校や老人福祉施設なども訪れています。

活動内容としては、読み聞かせボランティアグループが一般的に行なっている絵本を中心とした活動と差異はありません。ただ、メンバーの殆んどが素話(ストーリーテリング)を意識的に活動の中に取り入れるよう努めています。絵本の読み聞かせは、聞き手にとっても読み手にとっても楽しいものですが、おはなし(素話)が聞き手の心を確かに捉えた!と感じる時の歓びは格別のものがあります。おはなしを覚える時の苦労を忘れる瞬間でもあり、おはなしの虜になる所以でもあります。

発足して12年も経つと、会員の新規参入がないためメンバーも高齢化してきました。当初は子ども読書活動の推進を図るといった、肩肘張ったところも多少ありました。その目的は変わらずとも、かなりゆったりした気持で活動に取組むゆ

とりが出来てきました。最近では、 子どもたちに対してボランティア 活動をしているのではなく、子ど もたちから沢山の元気や喜びを分 けて貰っている、有難いことだと 感じることが多くなりました。

文部科学大臣賞受賞を機会により一層楽しい充実した活動を行なって参りたいと思っております。



小学校での活動



ほっとたいむ

読書郵便の作品募集

「読書郵便」とは

友だちや大切な人に読んでもらいたい、たくさんの人にすすめたい本を、郵便ハガキ形式で 紹介したものです。

今年度も、県内市町立図書館等のご協力をいただき、作品を募集しております ので、ふるってお近くの図書館までご応募ください。(お子様にもご案内ください。) 応募いただいた作品の中から、特に県内の子どもたちに紹介したいものについ ては、「長崎発読書郵便集」(冊子)に掲載します。掲載された方には記念品とし て「図書カード」を贈ります。

多くの人の心に響く、心のこもった温かい作品をお待ちしております。

応募対象・県内の小・中・高校生

応募締切 9月12日(木)

問合先

最寄りの市町立図書館または県立長崎図書館 詳しくは、県立長崎図書館ホームページをご覧ください。



募集チラシ

長崎図書クロスねっと ~あなたが求めるその1冊を届けたい~

最寄りの図書館に探している本がないときは?

最寄りの図書館に探している本がない場合でも、インターネット 上で県内の図書館等が所蔵する本を検索し、最寄りの図書館で借り ることができます。

皆様にお探しの本を提供するため、県内の県・市町図書館や大学 図書館(蔵書総数約850万冊)が、協力体制を整えています。

詳しくは、最寄りの図書館または、県立長崎図書館へお尋ねくだ さい。ぜひご活用ください。

あなたが求めるその1冊を届けたい!



催し物のご案内

「長崎ゆかりの文学展」

(第2回企画展)

「原爆文学展」……(平成25年7月9日~9月8日)

(第3回企画展)

「長崎の現代作家展」(平成25年9月25日~12月23日)

場所:県立長崎図書館4階郷土資料展示室 時間:9:30~17:00 (ただし休館日を除く)

第30回県立長崎図書館講座

日時:平成25年11月10日(日) 13:30~15:30

場所:県立長崎図書館2階講堂 内容:「国際医療援助活動」

をテーマとする講演

講師:黒崎 伸子氏

(特定非営利活動法人国境なき医師団日本 会長)

編集·発行 長崎県立長崎図書館 長崎市立山1丁目1番51号 ISSN 1344-5235 ホームページアドレス http://www.lib.pref.nagasaki.jp